



HIV・エイズの研修会を開催しました

感染症とは病原体が体内に侵入することで起こる病気のことをいいます。近年猛威を振るっている新型コロナウイルスもそのひとつです。今回は広島大学エイズ医療対策室より、HIV・エイズのオンライン研修会を開催して頂きました。

HIVやエイズは血液感染・性行為感染・母子感染でしか感染することはなく、握手や抱擁などの接触やお風呂やトイレの共用では感染しません。

また医学の進歩により、現在は薬を服用し続けることで感染者が他に感染させてしまうリスクはほとんどありません。

しかし、悲しいことに感染症に対する差別があることは事実です。自分を守るためだけでなく、相手を傷つけないためにも正しい知識を持つことは大切です。それは新型コロナウイルスでも当てはまりますね。

「4月から外来担当医が変わります」

3月をもって腎臓内科「卜部医師」が移動となり、4月から新しく「板倉医師」「佐伯医師」が着任しました。腎臓内科医師が3名体制で勤務することとなり、それに伴い外来担当医が変更になるのでご注意ください。



	月	火	水	木	金	土
午前	青山 喬	大村 泰	佐伯 友樹	大村 泰	宮里 浩司	宮里 (第一) 佐伯 (第二・四) 大村 (第三・五)
午後	大村 泰	宮里 浩司	腎臓内科	宮里 浩司	脳神経内科	休診

お花見

4月といえばお花見ですが、そもそもお花見が行事として定着したのは奈良時代に貴族が自宅で花見を楽しんだのが始まりだと言われています。ただ、奈良時代のお花見は現代のように桜を楽しむのではなく、その当時中国との交易で日本にやってきた梅の花を見て楽しむことが多かったそう、万葉集に残されている歌も、ほとんどが梅の花を詠んだ歌です。

桜を楽しむお花見が始まったのは平安時代と言われており、「日本後紀」には嵯峨天皇が京都・神泉苑にて「花宴之節(かえんのせち)」を催したと記載されており、これが記録に残る最古の「桜の花見」だったとされています。

「古今和歌集」には、梅の花の歌より桜の歌の方が数多く残されており、梅と桜が逆転したことが伺い知れます。我々庶民が花見を楽しむようになったのは戦乱が終わり庶民文化が開く江戸時代になってからで、貴族の歌を詠む花見から現代に通じる酒盛りとしての花見が広がって行き、この頃には桜の下に幕を張る「場所取り」も行われていたそう、時代が変わっても人の考えることは同じだと言えます。日本人が大好きなお花見ですが、意外なことには世界の人々もお花見が好きなので、アメリカの首都ワシントンでは、桜の季節に「全米桜祭り」が開かれ、期間中は約100万人を超える人が世界中から集まり桜の開花を楽しむそうです。

その他、カナダやスウェーデンの首都ストックホルム、ドイツ、スペイン、などでも開花時期には多くの人々が花見を楽しむそうで、国によって開花時期は違いますが、春の訪れを告げる桜の花は世界中の人から愛されていると言えるのではないでしょうか。



診療案内 (今月より医師及び担当日が変更となるのでご注意ください)

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

担当医

月曜日 午前：青山 午後：大村 木曜日 午前：大村 午後：宮里
火曜日 午前：大村 午後：宮里 金曜日 午前：宮里
水曜日 午前：佐伯 午後：原・板倉(腎臓内科) 午後：竹中(脳神経内科)

土曜日 診療は午前のみ：宮里(第1) 佐伯(第2・第4) 大村(第3・第5)

季節の風景



さくら

